

## 6千人を守るために

東北学院大学泉キャンパス 総務部次長 二階堂 哲

本学泉キャンパスでは、学生、教職員、業者さんなどを含め、およそ6千人の方々が生活をしています。「6千人を如何にして守るのか！」それが泉キャンパス最大の課題、そして使命でもあります。

そのために、本学が防災上取り組んでいるいくつかの事例を紹介させていただきます。

### 1. 「防災訓練」について

訓練は、授業の妨げにならない昼休みに実施しています。3キャンパス同時訓練を行うことが多く、通報・全館放送・避難誘導・消火栓・消火器操作・無線交信訓練など、短時間での実施は容易ではありません。しかし、時間との勝負は、本番対応には最適と前向きに考えて実施しています。課題である「訓練参加者をどう増やすか」「自衛消防隊の組織強化」などについても検討を続けています。

### 2. 「防災備蓄品」について

東日本大震災時に、多くの学生や市民の避難場所となった本学では、3キャンパスすべてに備蓄品用コンテナ等が設置され、緊急用物資が保管されています。実際に、東日本大震災の際にも、毛布、発電機、食料品など多くの物資を避難者に提供することができました。そのことで難を逃れられたという経験を基に、備蓄品の見直しなども継続的に行っています。参考までに、土樋キャンパスでは、仙台市と締結した「災害時における帰宅困難者の支援に関

する協定」に基づき、帰宅困難者用備蓄品の管理を行い、また、緊急時一時滞在場所としてのキャンパス提供についても協力体制を整えています。

### 3. 「学生防災レンジャーチーム」について

数千人が安全に避難するためには、教職員だけでなく、緊急時に冷静で正しい判断ができる学生を一人でも多く育てる必要があります。そのために、泉キャンパスでは「学生防災レンジャーチーム」を結成し、学生防災リーダー育成に努めています。学生レンジャーは、①救命講習の受講 ②学内研修会等への参加（消防署貸し出し用ソフトは大変好評）③キャンパス危険箇所等の確認 ④学内防災訓練への参加（車椅子学生の避難補助訓練も実施）⑤枯葉清掃ボランティア活動（火災防止）などにも積極的に取り組んでいます。また、若者が減少している近隣町内会と学生レンジャーとの連携訓練も計画中です。

いつやって来るかわからない災害に備える重要性を頭の中では分かっているとしても、そのための備えをしっかりと行っている学生や教職員は決して多いとは言えません。しかし、そのことを前提に、多くの制約を越えて、できる限りの対応と準備をしておくことが私たちの大きな使命と考えています。「一人の被害者も出さないために！」



自衛消防隊による初期消火訓練



「学生防災レンジャーチーム」